

ひきこもり支援事業

(1) 支援概要

平成23年8月より、ひきこもりに関する総合的な窓口として「新潟市ひきこもり相談支援センター」を設置。

ひきこもり相談支援センターを中心に、官民の関係機関と連携しながら、支援を実施。

(2) ひきこもり相談支援センター事業

ア 開設日時 火曜日～土曜日 9時～18時

イ 運営形態 「ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟」に事業を委託。

(R7.7.14 公募型プロポーザル方式で委託事業者選定をした結果、同法人への委託を継続)

ウ 設置場所 新潟市万代市民会館5階(中央区東万代町9-1)

エ 職員体制

・R4年度：4名 → R4年6月より5名(事業責任者1名、支援コーディネーター4名)

※非常勤職員の勤務日数減に伴い、支援コーディネーター1名増

・R5年度～：4名(事業責任者1名、支援コーディネーター3名)

*R7年10月～：5名(事業責任者1名、支援コーディネーター4名)

オ 活動内容

- ・相談支援(電話、面接、メール、所外相談など)
- ・訪問支援(アウトリーチ)
- ・居場所
- ・就労前体験
- ・親支援(家族会)
- ・関係機関の職員養成研修
- ・関係機関ネットワークづくり、情報発信、普及啓発

カ 事業実績

① 相談、訪問実績年次推移

		令和5年度	令和6年度	令和7年度 (4～9月)
相談延件数		1,704	1,716	838
内 訳	電 話	623	729	344
	面 接	867	669	310
	メール	33	80	28
	LINE	58	87	78
	所外等	123	151	78
訪問延件数		245	264	135

② 新規相談者数年次推移（年齢別）

	合計	20歳未満	20代	30代	40代	50歳以上	年齢不明
令和5年度	113	23	24	25	20	20	1
令和6年度	102	24	20	17	9	23	9
令和7年度 (4～9月)	48	7	11	13	7	7	3

③居場所等プログラム参加者数 ※就労前体験、家族会含む

	実施回数	参加者合計	内 訳		
			本人(男)	本人(女)	家族・支援者等
令和5年度	76	329	227	33	69
令和6年度	88	361	225	55	81
令和7年度 (4～9月)	47	274	114	34	126

④関係機関ネットワークづくり

<新潟市ひきこもり支援連絡会>

【設置目的】

「新潟市ひきこもり相談支援センター事業実施要綱」に基づき、本市におけるひきこもり支援に関する課題の整理や情報交換、事例検討等を行い、各機関による恒常的な連携を確保するため、医療・保健・福祉・教育・労働等の関係機関からなる「新潟市ひきこもり支援連絡会」を設置する。

※支援連絡会の構成員について

ひきこもり・サポートネットにいがた、NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」、NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク伴走舎、不登校・ひきこもり研究会、新潟地域若者サポートステーション、就労支援事業所 きまま舎、新潟市若者支援センターオール、新潟市パーソナルサポートセンター、市発達障がい支援センターJOIN、NPO新潟ねっと、市社会福祉協議会、各区社会福祉協議会、県ひきこもり地域支援センター、県立新潟翠江高校、市教育委員会（教育総務課、生涯学習推進課、学校人事課、学校支援課）、市立高等学校（万代、明鏡）、市障がい福祉課、市各区健康福祉課、市地域包括ケア推進課（市内各地域包括支援センター）、こころの健康センター、ひきこもり相談支援センター

【令和7年度 実施内容】

会場 及び 日程	内 容	参加機関・出席者数
令和7年6月30日（月） 13：30～16：00 〈会場〉新潟テルサ	<p><第一部：支援連絡会></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度 事業実績報告 ひきこもり支援者の抱える課題把握調査結果報告（こころの健康センターより） <p><第二部：研修会></p> <ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援ハンドブックについて 	<p>〈参加機関〉49 機関 〈出席者数〉55 名</p>

<各区ひきこもり支援連絡会、社会福祉協議会等との共催および協力事業>

区	内 容
北 区	<u>○ひきこもり支援連絡会</u> ・出張相談会 ・ゆるやかな家族向けの居場所
東 区	・ニート、ひきこもりの方の親セミナー（新潟地域若者サポートステーション等と共催） ・ボランティアサロンへの参加サポート ・個別相談対応、個別カンファレンス
中央区	・ニート、ひきこもりの方の親セミナー（新潟地域若者サポートステーション等と共催）
江南区	・生きづらさを抱えた方の居場所「ほのぼの江南」 ・ひきこもりや生きづらさを知るための講演会 ・コアメンバー会議 ・個別ケース会議とアウトリーチ
秋葉区	<u>○ひきこもり支援連絡会</u> ・家族向けひきこもりを学ぶ講座 ・家族の懇談会
南 区	<u>○ひきこもり支援連絡会</u> ・ひきこもりに悩んでいる家族の居場所 ・当事者の居場所「rakkura」 ・個別ケース会議とアウトリーチ
西 区	・西区ひきこもりびとミーティング ・にしコミネット ・ニート、ひきこもりの方の親セミナー（新潟地域若者サポートステーション等と共催）
西蒲区	<u>○西蒲区生きづらさを抱えた方の支援連絡会</u> ・出張相談会 ・当事者の居場所「marugo-to home」 「marugo-to home ひきこもり限定ぷち居場所」 ・親の会「まるまるの会」

<各会議体との連携（計画的・定期的な参加）>

- ・ひきこもりサポートネットにいがた、にいがた若者自立応援ネット、ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟B部会、若者支援協議会実務代表者会議、新潟市パーソナル・サポート・センター支援調整会議、新潟市中学校校長会 など

<情報発信、普及啓発>

- ・ホームページやブログでの情報発信
- ・パンフレットの刷新
- ・関係機関との共催事業や各区の支援者が集う会議等への積極的な参加

⑤関係機関の職員養成研修事業

- ・ひきこもり支援に関する支援者向け研修会を年2回実施
 - 〈日程〉1回目：令和7年6月30日（月） 2回目：令和8年1月23日（金）
 - 〈会場〉新潟テルサ
 - 〈内容〉ひきこもり支援における初期対応、事例学習等

⑥新潟県精神保健福祉協会新潟市支部 市民講座

- 2回シリーズで「ひきこもり」をテーマに開催
 - 〈1回目〉令和7年12月21日（日） 新潟テルサ
「ひきこもりの真実～就労より自立より大切なこと～」
講師：一般社団法人ひきこもりUX会議 代表理事 林 恭子 氏
 - 〈2回目〉令和8年2月28日（土） 新潟テルサ
「私のひきこもり体験記～誰もが住みやすい地域ってなんだろう？～（仮）」
講師：ひきこもり経験者、新潟市ひきこもり相談支援センター他

（3）課題と今後の方向性

ア ひきこもり相談支援センターは市の中心部にあり、遠方在住の当事者及び高齢のご家族にとっては、利用しづらい状況がある。

ひきこもりの状態からの回復支援は、長期的な視点で相談支援を継続することが大切であり、当事者や家族が身近で相談できる場や機会の提供が重要である。当事者や家族などが身近な居住区内で相談ができるよう、ひきこもり相談支援センターによる各区関係機関への後方支援の強化、各地域における支援の平準化が求められる。

イ ひきこもりは、当事者やご家族の年齢や生活背景、精神疾患等の有無などにより、多様な支援が必要であることから、一つの機関での支援には限界がある。令和7年1月、厚生労働省が発行した「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」では、ひきこもり支援対象者を「様々な生きづらさを抱えている状態の人」としており、地域の支援者及び医療、福祉、教育、雇用等の関係機関との連携による多職種支援や更なるネットワークの強化を図ることが必要である。

重層的支援体制を構築するうえで、ひきこもり地域支援センター運営事業として、多職種による専門チームを設置し、適切な支援につなぐための連携と協力体制が求められている。

ウ 当事者やご家族が抱えている複雑化、複合化した課題に対する支援には、支援者のひきこもりに対する理解と支援力の向上が不可欠であり、関係機関と連携しながら支援体制の強化に向け、支援者向けの研修や家族や地域に向けた講演会などの各事業を着実に継続して実施していくことが必要である。